



長岡小学校4、5年生(12月11日)



長岡小学校6年生(12月18日)

感想:「ぼくのいえでは、おとうさんとぼくが、とくにりょうりをしています。」
「からかわれて困っている人がいたら、助けてあげたいです。」
「女みたいとか、男みたいと言うんじゃなく、それいいかさだねとか、ほめ言葉をたくさん言ってあげることが大切だと思いました。」

感想:「本当の性を知ったから友達をやめるんじゃないくて、本当の性を知ったからこそ友達としてあり続けるべきだと思いました。」
「ぼくは、前まで家事は全部女の人がやと思っていたけど、これからは自分から家事を手伝いたいです。」

講師:南国市教育委員会事務局生涯学習課生涯学習人権係 徳久 里恵

出前教室の最後に、絵本の読み聞かせをしています。LGBTの方は現在11人に1人の割合と言われています。また、性に違和感のある子どもたちは、小学校高学年になるころには自分を偽ることが多くなるとも言われています。実際に、「女子トイレに男子が入った」とからかわれた女子児童が、それっきり学校のトイレに行けなくなったという事例もありました。出前教室で使用する絵本は全て、お互いの違いを尊重し、多様な生き方や家族のあり方を認め合える内容を選び、自分らしくいることの大切さを伝えることをねらいとしています。絵本の内容を簡単にご紹介します。



「くまのトーマスはおんなのこ」

主人公は男の子のエロール。くまのトーマスと大の仲良し。いつも二人で仲良く遊んでいますが、ある日トーマスがこんな話をしました。「心の中ではいつも分かっていたの。自分は男の子じゃなくて女の子のくまだって。」エロールに嫌われるのではないかと不安げに告白します。笑顔で聞き入れたエロールは、「大事なのはさがみがぼくの友だちってことさ」と返します。そして二人はこれまでもそうしていたように、また仲良く遊び始めます。

友だちのありのままを受け入れるお話しに、心が温まります。



「タンタンタンゴはパパふたり」

NYにある動物園であった、実話です。2羽のオスペンギンはいつも仲良しで、いつも一緒に過ごし、メスペンギンには全く興味を示しません。1つの石を代わりばんこに温める様子を見ていた飼育員さんは、「愛し合っているんだ」と気づきます。育児放棄された卵と石をこっそりすり替えて、2羽はそれに気づかず温め続けて産まれたのがタンゴでした。

家族になることに性別は関係ないし、人それぞれ幸せと思うことは違う。そんなことが分かる感動のお話です。



「わたしはあかねこ」

あかねこは、真っ白なしろねこかあさんと真っ黒なくろねここうさんから生まれました。他の兄弟は猫らしい色なのに、私だけ赤。お父さんもお母さんも同情するけど、あかねこはこの色がとても気に入っています。みんなはかわいいそうと言ったり、毛の色を変えようとしています。わたしはきれいでかわいい、この色が好きなのに…周りから認めてもらえないあかねこは、自分らしくいられる場所を求めて旅に出ます。あかねこが自分に自信を持って自分のことが大好きと言える自己肯定感の高さに勇気づけられます。

●子どもの人権110番: 0120-007-110 ●みんなの人権110番: 0570-003-110

全国共通・無料 相談窓口時間 8:30~17:15(土・日・祝日を除く)

■問い合わせ/生涯学習課生涯学習人権係(☎880-6569)

南国市男女共同参画推進 出前教室を実施しています ♪ハーモニー♪

男女共同参画シリーズ

女だから、男だからではなく、「自分らしく いきいき のびのび」そんな南国市を目指して、今年度は南国市内小学校5校で出前教室を開催しました。南国市男女共同参画推進計画広報版リーフレットを使用し、学校や家庭など普段の生活の中で、男女共同参画の視点を持たなければ見過ごされてしまうような事例を取り上げています。「男女共同参画」についての理解を深め、自分らしくいることの大切さに気付けたとの感想をたくさんいただきました。熱心に絵本の読み聞かせに耳を傾けている姿も、とても印象的でした。



稲生小学校5、6年生(6月1日)



岡豊小学校6年生(6月21日)



三和小学校5、6年生(10月12日)



日章小学校5、6年生(10月24日)

感想:「わたしは、出前教室を受けてよかったと思いました。『男の子だから、女の子だから』という認識が、日常にたくさんあったことに気づくことができました。」
「一人ひとり好きなものが違って、人がきめちやいけないうちも学びました。」
「家事はお母さんが全部やらず、お父さんもやればいいと思った。」

感想:「男の子の子と言わずに、みんなで仲良く協力して行動できればいいと思いました。」
「男の子や女の子だからと言って、仕事や係を区別するのは良くないと思いました。」
「男の人も、家事をやったほうがいいと思います。」

感想:「今日の出前教室で、別に男の子が赤い傘を使ってもいいと思いました。出前教室はとても楽しかったです。」
「性別にこだわらず、自分のやりたいことをして、自分に合った仕事をしたいなと思った。」
「人それぞれなりたいたいものがあるので、そういう時は応援してあげたいと思いました。」

感想:「たまに、『男子の方が力持ちやき、やって』と男子まかせにしていたので、男女関係なくこれから全員で助け合っていきたいと思いました。」
「この出前教室を受けて、私の得意なものや、好きなことにどんどん挑戦をして、頑張って夢を見つけないと思いました。」
「家事を手伝うときは手伝おうと思いました。」